



平成30年2月16日
中部地方整備局
港湾空港部
名古屋港湾事務所
三河港湾事務所

港の視察受け入れを通じて国際協力に貢献しました ～ J I C A 研修員が名古屋港・三河港を視察～

中部地方整備局は平成30年2月8日～9日、J I C A（独立行政法人国際協力機構）が実施している「港湾戦略運営」研修で来日している各国研修員を名古屋港及び三河港に迎え、優れた中部の港を紹介しました。

1. 概要

中部地方整備局では、J I C A との連携による国際協力を積極的に推進しています。本視察は、研修参加者各国の公的機関において港湾運営に係わる部署の方を対象に行われ、研修員の自国での課題を踏まえ、本研修における講義や視察を通じ、港湾の戦略的開発能力及び運営管理能力の向上のため行うものです。主な視察として、名古屋港では日本初の自動化コンテナターミナル、完成自動車の輸入台数及び金額が日本一である三河港においては新車整備センターの視察を行いました。

2. 実施内容等

実施日：平成30年2月8日（木）～9日（金）

場所：名古屋港及び三河港

受講者：11名（以下の10カ国より来日）

コロンビア、コートジボワール、ガーナ、インドネシア、ケニア、モロッコ、モザンビーク、フィリピン、エジプト、イラク

目的：研修員の港湾の戦略的開発能力及び運営管理能力の向上のため、講義や視察を通じて日本での取り組みを把握するものであり、名古屋港においては自動化によるコンテナターミナルの効率的な管理・運営、三河港においては我が国の輸入完成自動車の効率的な輸送・管理を視察します。

3. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真をご希望の場合は対応しますので、お問い合わせください。

4. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、名古屋港記者クラブ、豊橋市政記者会、港湾新聞
港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス、マリタイムデーリーニュース

5. 問合せ先

中部地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 赤石 正廣（あかいし まさひろ）、課長補佐 大平 勝司（おおひら かつじ）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

研修行程及び研修の様子

■行程

名古屋港 平成30年2月8日（木）

- 13:00～13:40 【概要説明】名古屋港の概要説明
13:50～14:20 【視察】海上交通センターより名古屋港を展望
14:30～14:50 【視察】集中管理ゲート ※1
15:00～16:00 【視察】飛島ふ頭南側コンテナターミナル※2

※1：集中管理ゲートとは、コンテナターミナルのゲート毎に行っている貨物の確認業務を分担し処理する施設です。集中管理ゲートで情報処理、貨物の確認業務を大部分実施することで各ゲートでの作業が少量化しスムーズとなり、ふ頭内の渋滞が緩和するなど、物流の効率化に寄与している施設です。

※2：飛島コンテナ埠頭(株)が運営する日本初の自動化コンテナターミナルです。コンテナを無人で搬送する自働搬送台車、ラバータイヤ式ガントリークレーンを導入しています。

三河港 平成30年2月9日（金）

- 13:00～13:40 【概要説明】三河港の概要説明
13:40～14:20 【視察】カモメリア展望室より三河港を見学
14:30～16:00 【視察】メルセデス・ベンツ日本（株） 新車整備センター ※3
16:30～17:00 【表敬訪問】豊橋市長を表敬訪問

※3：新車整備センター（VPC（Vehicle Preparation Center））では日本に到着した車を整備し、顧客の納車日に合わせて全国の正規ディーラーに出荷します。また、デリバリーコーナーを備えており、センター内で納車式を行うこともできます。

■視察の様子

2月8日の名古屋港においては、名古屋港の成り立ちや貿易概況を学んだ後、飛島コンテナ埠頭(株)の自動化コンテナターミナルを見学しました。研修員は、先進技術に感嘆し、ターミナルの今後の計画や、人材育成の方法などについて質問しました。

2月9日の三河港見学では港湾に隣接している施設の優位性、完成自動車の輸入台数及び金額が日本一になった経緯などの説明を聞き、メルセデス・ベンツ日本（株）を訪問し、新車整備センターでの輸入車の整備状況の一連の工程を見学しました。ここでは、同工場での輸入の手続き、保管期間についてなど、一連の流れを確認する質問が多くありました。同日の終わりは、豊橋市長へ表敬訪問を行い、各研修員は自己紹介を行い数名が三河港を視察して感じたこと、日本について感じたことなどの感想や自国の港に対する抱負を述べ、市長と意見交換を行いました。

(視察時の様子 (写真))

2月8日 名古屋港



名古屋港の概要説明を聞く研修員

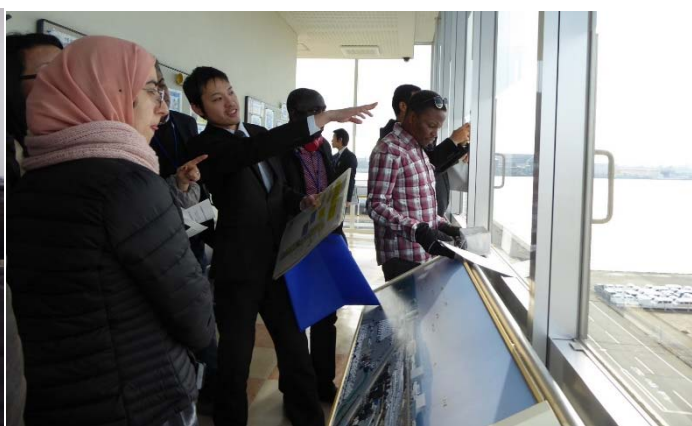


飛島ふ頭南側コンテナターミナルにて

2月9日 三河港



三河港湾事務所長より挨拶



三河港「カモメリア」展望室にて三河港を俯瞰



メルセデス・ベンツ日本(株) 新車整備センター



豊橋市長を表敬訪問

(視察後の感想)

○コロンビアから本研修に参加しているサラさん

名古屋港は、先進的なターミナルがあり素晴らしいです。クレーンの運転は、オペレータが無理な姿勢で行うため大変な作業ですが、自動化、遠隔化で労働者にやさしい環境を作り出しています。また、集中管理ゲートで交通渋滞が無く、効率的な輸送ができている港であると感じました。

○フィリピンから本研修に参加しているパディリラさん

フィリピンは、台風、地震など日本と共通する災害も多いことから名古屋港で説明のあった防災の取り組みは参考となります。また、三河港ではRORO船で完成自動車を輸入していますが、フィリピンはRORO船の利用が非常に多い国ですので身近に感じました。島から島へ貨物を輸送する際には、車輛ごと船に乗せ複合一貫輸送を行うのが非常に便利なのです。フィリピンには日本のODAの支援を受けて開発されたバタンガス港があり、RORO船の用途で使用しています。